

## 日本葬送文化学会 会長就任挨拶

平成24年4月26日 於東京文化会館

杉浦 昌則

この度総会の承認を得まして、新会長に就任が決まりました杉浦と申します。ご承知の通りの浅学非才の身で、とても会長に治まる器ではございません。運命の悪戯でこのような結果となりましたが、これまで学会には私も大変お世話になりましたので、この辺でご恩返しのつもりで、ご奉仕させて頂くことに致しました。

昭和60年9月東京電機大学にて、第一回の研究会が開催されました。27年前のことです。そしてその8年後の平成5年に、それまでの研究の集大成として「葬送文化論」が刊行されました。そしてさらに平成19年には、会員の地道な現地調査の結果をまとめた「火葬後拾骨の東と西」が上梓されました。

この会が四半世紀以上も継続してこられたのは、諸先輩の方々の真摯なご努力の賜と思います。そしてそこには存在する価値と、継続するだけの意義があったことは間違いのない事実です。しかし葬儀を取り巻く環境はこの間、激変と言えるほど様変わり致しました。会が始まった頃は、葬儀に関する情報が希少だったものが、今やそれが氾濫する時代で、その中には正しいものもそうでないものも錯綜し、混沌としています。その結果「直葬」といわれる、葬儀の意義の大半を否定してしまうような、現実がどんどん広がってきています。

私はこれからの二年間の任期の中で、理事会や定例会を通じて会員の皆様とともに、葬儀におけるメンタルな要素、スピリチュアルな部分にまで考慮して、葬儀の本質とあり方を学んで行きたいと考えています。この部分の欠落が今日の事態を招いている気が致します。世界的・歴史的に見て、今の日本の主に都会で行われている葬儀の実態は、かつて古から大切にされてきた日本人の精神的文化から乖離して、異常とも思えるほどの変わりように思えます。私たちの会が節度と良識を持って学んだことを、迷走し先行する世相に警鐘をならし、啓発するよう発信していく必要を感じます。私も何をどのようにすれば良いのかよく分かりません。ですから理事会で議論し、定例会で活発な討論が出来る環境作りをしていきたいと考えています。

最後に皆様へのお願いですが、当会がさらに活性化するために「会員数の増強」と「出席率の増加」を目標に掲げたいと思います。それには定例会の更なる充実と、会員の参加意識の向上に繋がる運営が大切と思います。併せて会員各位のご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。